

狭山市の「地域福祉」に関する アンケート調査結果について

アンケートの概要

1. 調査目的

地域福祉活動団体の視点から地域の実態と課題を把握し、今後の地域福祉施策の検討に資する基礎資料を得るため

2. 調査対象

市内で地域福祉活動をしている約280団体の構成員 2,237人

3. 調査期間

令和7年5月1日から令和7年6月9日まで

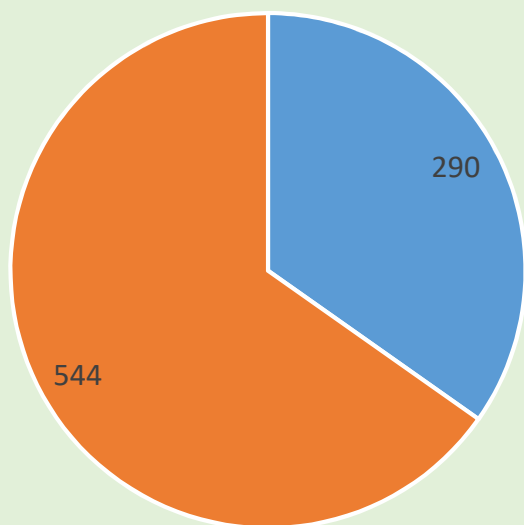
4. 調査方法

郵送による配布・回収とWebアンケート

狭山市の「地域福祉」に関するアンケート調査結果について

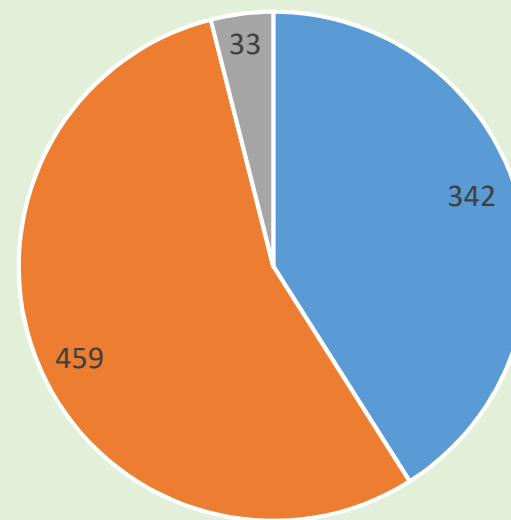
回答数

合計:834件



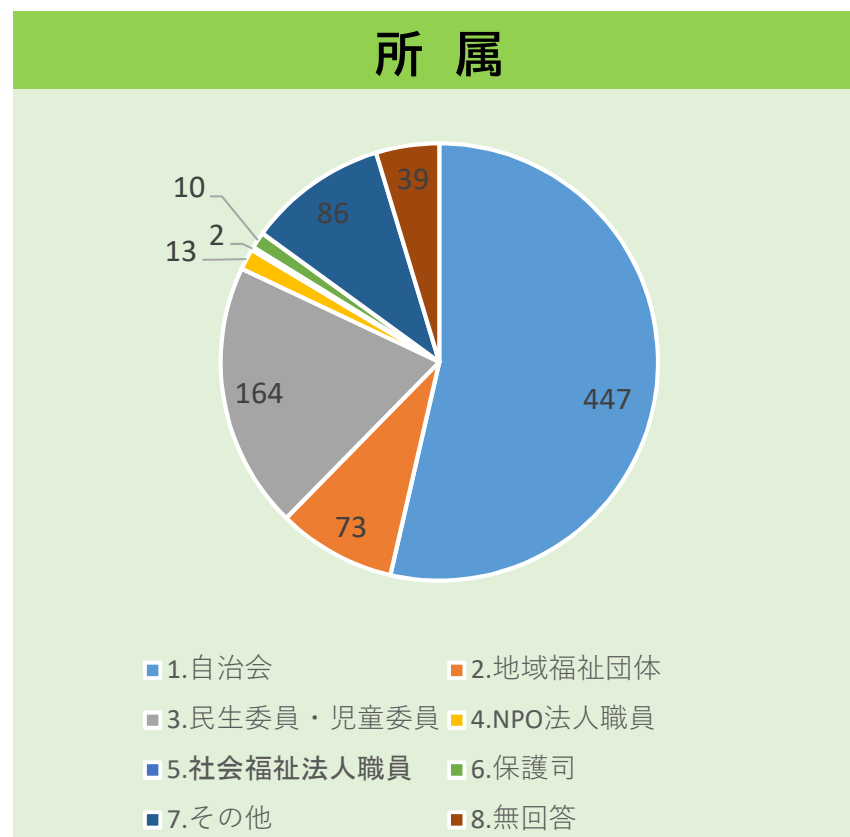
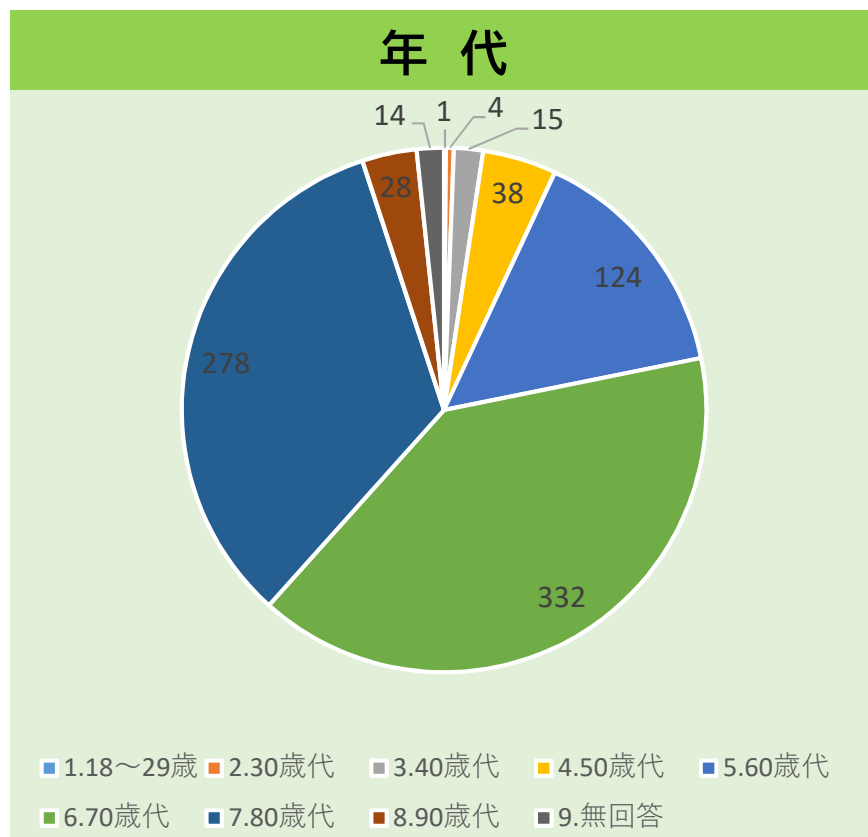
■ ネット回答 ■ 紙回答

性別



■ 1.男性 ■ 2.女性 ■ 3.不明・無回答

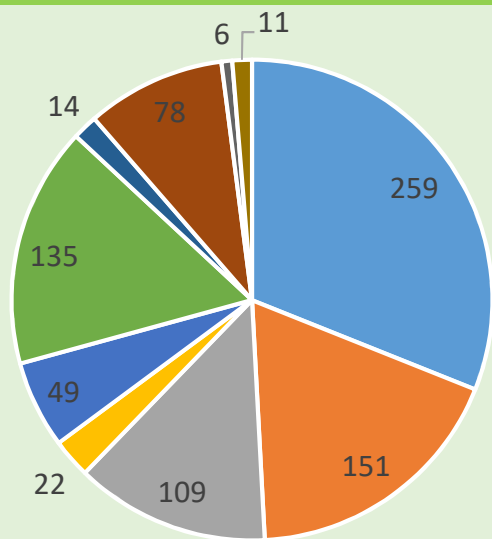
狭山市の「地域福祉」に関するアンケート調査結果について



※その他の内訳
過去に自治会役員、過去に民生委員、老人会、ふれあいサロン、百歳体操グループ、地区老連会、音楽サークル

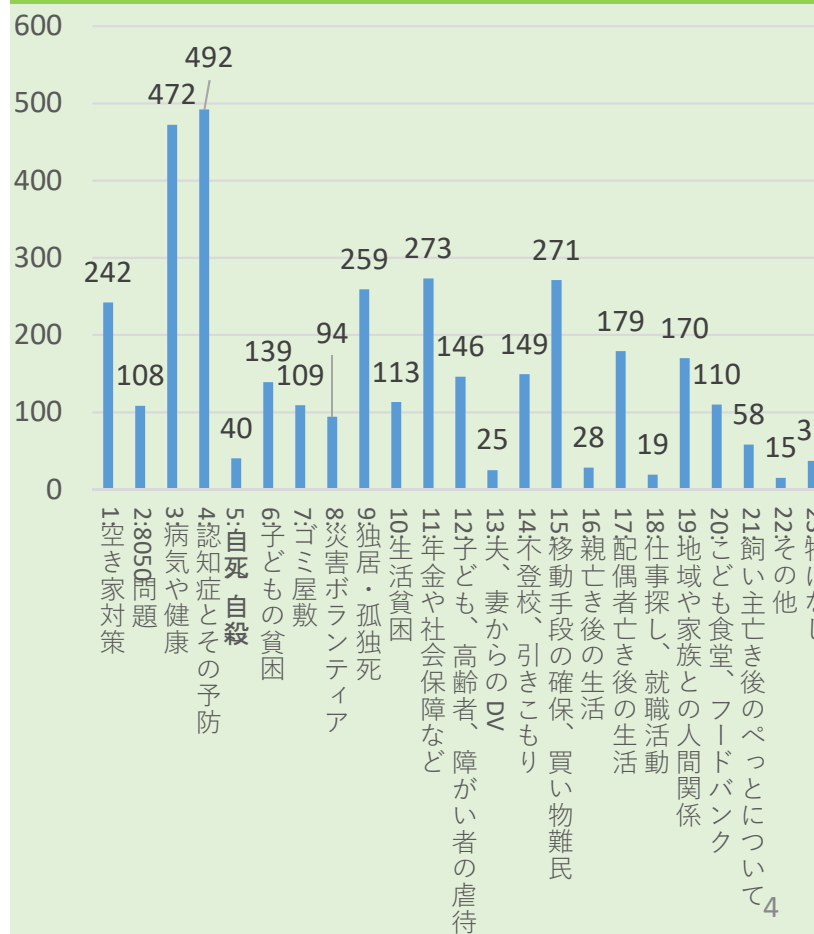
狭山市の「地域福祉」に関するアンケート調査結果について

居住地区



- 1.入間川地区 ■ 2.入曽地区 ■ 3.堀兼地区 ■ 4.奥富地区
- 5.柏原地区 ■ 6.水富地区 ■ 7.新狭山地区 ■ 8.狭山台地区
- 9.市外 ■ 10.無回答

関心のあるもの



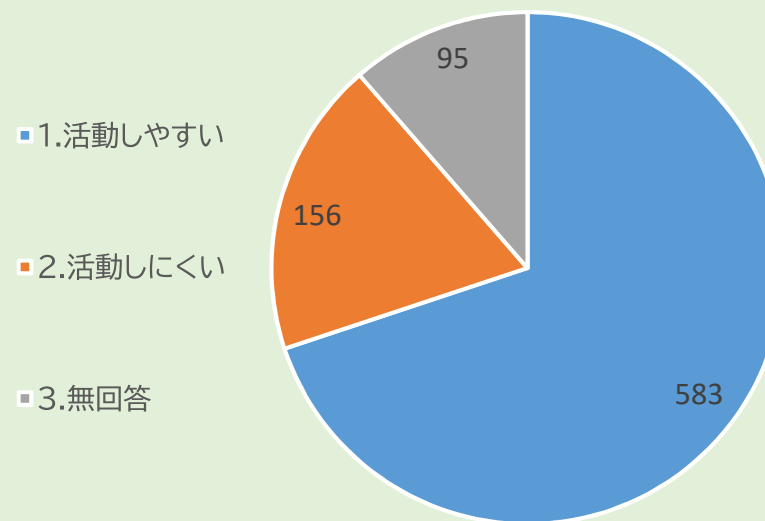
狭山市の「地域福祉」に関するアンケート調査結果について

関心のあるもの(その他)

- ・農業施策
- ・救急搬送の大変さ
- ・地縁の希薄化
- ・地域住民との親睦等
- ・防犯パトロール
- ・スポーツ
- ・”孤育て”について
- ・交通安全、詐欺、防犯

※一部抜粋

問1.あなたの地域での活動のしやすさについてどのように感じていますか。



狭山市の「地域福祉」に関するアンケート調査結果について

問2.問1の回答について、そのように判断した具体的な理由や状況をご記入ください。

「1:活動しやすい」を選んだ理由(一部抜粋)

- ・立地の良さ、包括支援センターや協力関係各所が多い為
- ・比較的民生委員と自治会が連携出来ているから
- ・周りの方が活動に協力的である
- ・地域の人とのつながりを作ることができている
- ・顔見知りが増えれば増えるほど、活動範囲が広がることを実感できるから
- ・自治会がしっかり組織されている
- ・ご近所の方が挨拶してくれるから。自治会がお祭りや交流会を開いていて、交流する機会があるから。
- ・協力的であり、地域福祉に意識をお持ちの方が多いため
- ・NPO法人によるカフェ、ディサービスやボランティア連合会による世話人としてのイベント参加や傾聴グループでの訓練や出会いが、ボランティアをやっていればこそその出会いに感謝です。
- ・一緒に活動してくれる仲間がいる
- ・生活水準にあまり差がない
- ・相談できる方がたくさんいらっしゃるから
- ・民生委員を始めて5年半だが、地域の方にその存在を認められつつあり、地域の情報が入り易いように思うから
- ・地域の繋がりが、まだ残っている。
- ・委員同士がお互いを尊重し、活動に協力し合える体制が出来ているから
- ・障害者の働く場としての相談があり、受け入れ体制が取れているから
- ・地元生まれ育ち、今日迄生活してきたため様子が良くわかる
- ・自治会に入っているのだから、地域に知り合いが多い
- ・自治会を通じて仲間づくりが出来ています

- ・長く住み慣れた高齢者が多く、世代交代の時期を感じる地域と思われがち。そのため見守る世帯は多いが集まっているので活動しやすい
- ・近隣が友好的 ・住民間のコミュニティが良い
- ・比較的協力的な多く横の連絡がつきやすい
- ・環境が良い、地域に友人多い
- ・地域に活動しやすいサークルが複数有る
- ・老若男女問わず、自治会内のサークル団体の活動が頻繁に行われており情報共有が出来ているため
- ・住民の方々が協力的な人が多く訪問を拒否する人が少ない為に、コミュニケーションがとりやすい
- ・地域福祉に対し、共通の認識を持った人達と協力して活動出来ているから
- ・高齢者の方々が近隣の様子の変化を知らせてくれます
- ・自治会の体制の確立。自治会加入率の高さ
- ・自発的に行動すればそれなりの希望は叶えられると思う
- ・特に 近隣とのトラブルもなく、平和な日常生活が過ごせている
- ・だれでも、気楽に会話が出来る地域だと思います。やさしい人が多いです
- ・住民の生活環境の格差があまりなく、話し安く生活しやすい
- ・地域のそれぞれの役員の方の仕事の仕方に感謝の気持ちで一杯です。役員の方の仕事ぶりに心うたれます
- ・団地内に於ける「ささえあい」の行動が充実している
- ・所属の老人クラブでは多くの活動分野が提供されていて自由に選択でき、かつ会員の交流が盛んである
- ・ボランティア活動の種類が多く、選択することができる

狭山市の「地域福祉」に関するアンケート調査結果について

問2.問1の回答について、そのように判断した具体的な理由や状況をご記入ください。

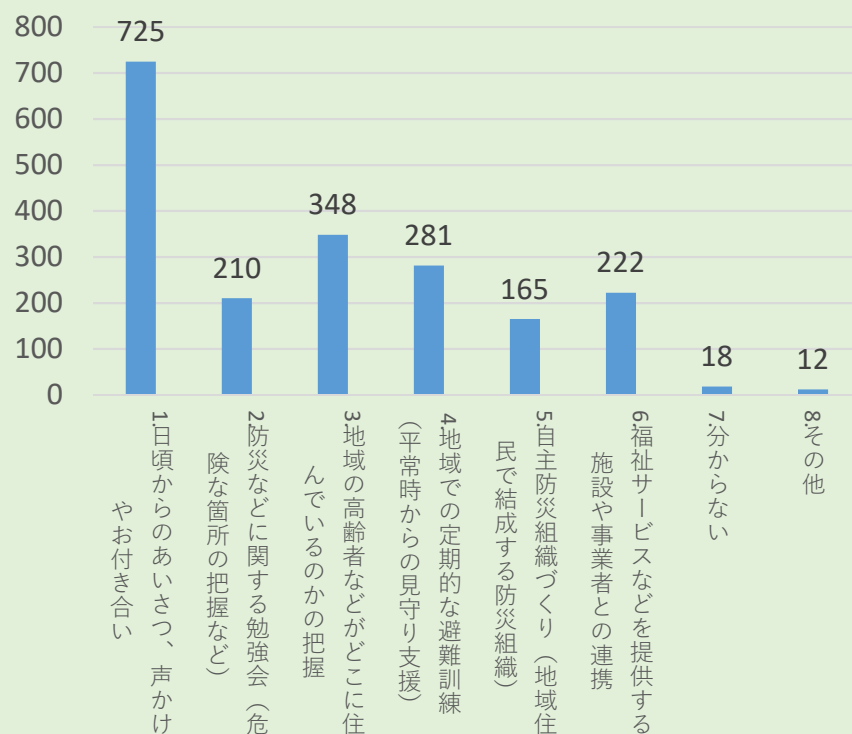
「2:活動しにくい」を選んだ理由(一部抜粋)

- ・住民の関心は高いものの人手不足
- ・自治会入会者が減少し、近所での人間関係が薄い
- ・自治会の高齢化 運営方法が古い
- ・自治会活動に対しての意識が少ない、役員募集にしても無反応、活動の参加も少なく、新しい組織作りが難しい状況のため
- ・新規転入世帯が自治会に入会してくれない
- ・地域のつながりが薄いと感じる
- ・ご近所との関係
- ・無関心、協力者が少ない
- ・日頃の挨拶など、隣近所のコミュニケーションが少なく、自治会活動への参加も消極的である
- ・他人のことは関せずという人が多く見受けられると感じる
- ・気軽に入れる場所がない
- ・一部の方々の決めたことをやっている
- ・役員になると時間的に拘束され、日常生活に支障をきたしている。役員活動に負担感が強く、多くの人が無理をしている感じがする。
- ・コロナ後、多様な考え方で、自粛や却下が増えた
- ・活動に役立つ情報の収集や発信が少ないこと
- ・地域の活動者同士の交流の場がないこと
- ・活動を希望する方や興味を持つ方が少ないこと
- ・自治体の支援介入が少ない
- ・活動資金の問題
- ・コロナ禍以降、新たな活動は、やりにくく思います。年令的な事もあり、コロナ禍以前の様な活動は無理だと思います(継続は力なりと 생각합니다)
- ・地域のことがあまりわからない

- ・一度活動を始めるとなかなか抜けられない。活動の方向性が異っても主張しやすく抜けづらい
- ・若年層の不参加・地域住民の高齢化
- ・関り合いを避けたがる人が多い
- ・コロナ禍の影響もあり、交流機会が減った
- ・超高齢(80才以上)者世帯や独居世帯(超高齢者)の多い地区の存在、子供の減少
- ・活動を一緒に行っている方々でも、やむを得ないとは思いますが、認識や向き合い方が違い、責任を持ってやる人に負担が多くなっている様に感じます
- ・高齢の方が増加しているので、つなぎ役、橋わたしの活動がきめこまやかな訪問が出来ていないので
- ・閉鎖的と開放的な人が二曲化している
- ・転入して住んでいるので勝手が良くわからない
- ・日頃からつきあいが無い
- ・移動手段の確保が大変

狭山市の「地域福祉」に関するアンケート調査結果について

問3.「災害時に住民が支え合う地域づくり」には、何が必要だと思いますか。[回答は3つまで]



問3.「災害時に住民が支え合う地域づくり」には、何が必要だと思いますか。（その他）

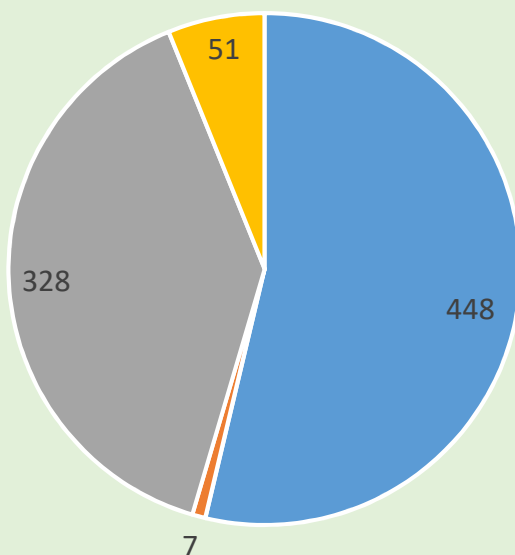
- ・行政が各地域の要望に柔軟に対応すること（現状、避難所で避難生活をするケースのみを想定した災害対応になっているように思われる）
- ・自己の安全をどう守るか考えて貰う啓蒙活動。誰をどうする。誰に何を連絡する。等。
- ・備蓄 ・水食料を調達できる拠点又は商業施設
- ・高齢者だけでなく、障害者、子ども、女性それぞれに配慮するための事前の情報収集と話し合い
- ・行政主導で出来ることの洗い出しを、行政だけでやらないこと
- ・自治会に加入して頂く ・自治会加入の促進
- ・行政の仕事と地域の期待をはっきりさせること。たとえば、水や食料の配布が必要な時どこで、どう配る計画ですか、災害弱者への対応、支援は、行政はなにができるのですか。家屋が壊れた時、どうすればよいのですか、けがのときはどうですか行政ができること、することを明確にし、地域、自治会、住民にどうしてほしいか。そこからなのではないかそれによって、自営の”地域づくり”もかわってくるのではないか。
- ・家族で集合場所を決めている

※一部抜粋

狭山市の「地域福祉」に関するアンケート調査結果について

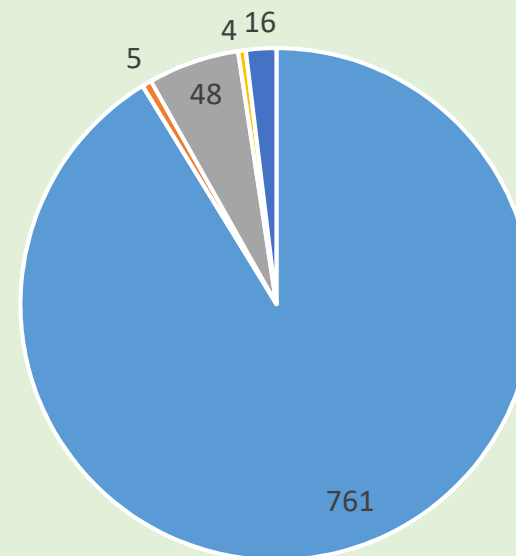
問4.身の回りの生活のことで課題を抱える方は、昨年と比べて増えていると思いますか。

- 1.増えている
- 2.減っている
- 3.変わらない
- 4.無回答



問5.地域のつながりの必要性について、あなたの考えに近いものはどれですか。

- 1.必要だと思う
- 2.必要ないと思う
- 3.分からない
- 4.その他
- 5.無回答



狭山市の「地域福祉」に関するアンケート調査結果について

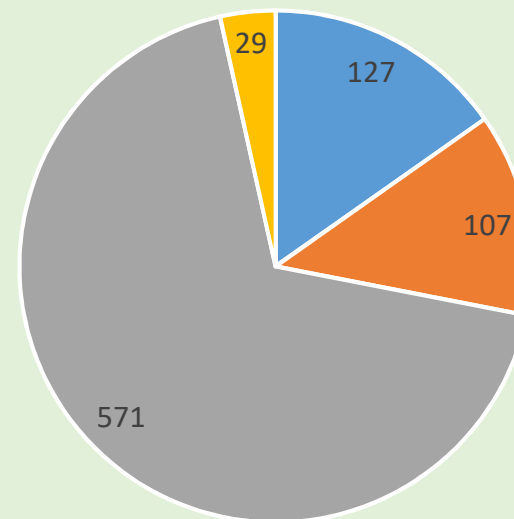
問5.地域のつながりの必要性について、あなたの考えに近いものはどれですか。(その他)

- ・地域の繋がりは大切だが、個人としての自由度も大切
- ・個人の生活を尊重できる範囲で必要
- ・地域とのつながりは大切だと思うが、その在り方が負担になってくる場合もある。選択肢のあるつながり方を模索すべきではと思う(ネットの活用など)

※一部抜粋

問6.地域のつながりについての状況は、昨年と比べて良くなっていると思いますか。

- 1.良くなっている
- 2.悪くなっている
- 3.変わらない
- 4.無回答



狭山市の「地域福祉」に関するアンケート調査結果について

問7.地域での住民相互の支え合いとして、必要なものについて、あなたの考えを記入してください。 (一部抜粋)

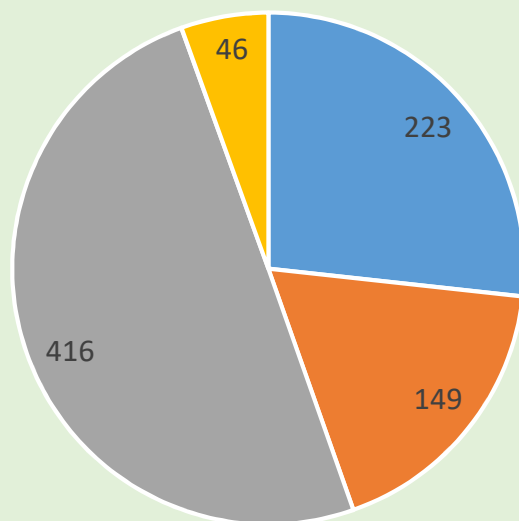
- ・日頃の挨拶・地域活動
- ・普段からのお付き合い
- ・日頃から顔の見える関係
- ・日頃からの交流や親睦創りによる人間関係づくり
- ・日頃から自治会、民生委員、近隣同士での会話
- ・住民が気楽に立ち寄れる場所作り
- ・単身者が参加しやすいイベントやコミュニティの企画
- ・コミュニケーションが取れる地域づくり
- ・お互いを気遣いあうこと
- ・優しさと思いやり
- ・お互いの助け合い
- ・見守り活動、福祉サービスや施設との連携
- ・地域の防災に関する参加型の研修会を開催し、参加者同士の意見交換を通じて必要な方法を見いだして行けたら良いと思います。
- ・地域の方が自由に集まれる場所作りが大切だと思う。自治会に入らない若い世代も巻き込むイベントなど自治会が中心になってやることも大切だと思うが、現在の自治会の役員の方も高齢になり、そのままやるのは負担であると感じる。
- ・自治会活動の活発化
- ・自治会への関心向上と行事参加促進の呼びかけ
- ・日常生活でいろいろな活動に参加する。
- ・伝統的なお祭りなど、行事の実施
- ・地域の行事に参加すること
- ・普段の住民相互のコミュニケーションが必要不可欠であり、そういった場を多く設け、お互いの理解を深めて行く
- ・自治会活動等で地域の人達との交流が大切
- ・地域の中のつながりは必要とは思いますが、仕事フルタイムで子供がいるとできない。日頃の備えなどについては仕事柄考えてるが、オンライン勉強会などがあると良い

- ・他人事を自分事に変えていくための仕掛け(お客さまではなく、主体者にしていく)
- ・各々が地域と関わる、顔見知りになる、挨拶をする等、当たり前のことをしていれば、まわりは気にしてくれる
- ・色々な人の集まりですから、強制されない緩い繋がりが望ましい
- ・「強いつながり」ではなく、「弱いつながり」を育むこと
- ・負担にならないような支え合い
- ・住民の当事者意識と地域活動へのゆるやかな参加
- ・名前、顔を覚え声かけが容易にできるような環境
- ・高齢者や子供の見守り
- ・地域が高齢者に囲まれて老老介護状態、お互いを見守りが必要
- ・行政の積極的なバックアップ
- ・地域にだけ任せすぎずに、必要な対応や揉め事時には行政等に迅速にフォローしてもらえる体制
- ・住民だけでは難しい部分があると思うので、市の支援が必要
- ・世代の違いを超えた関わり合い、他の世代を受け入れて尊重し合える関係作り。特に若い世代を大事にして伸ばしていけるような雰囲気作り
- ・日頃からの隣近所の付き合いやパトロール。パトロールは子供の見守りなどの防犯・交通安全に限らず独居高齢者宅訪問や空家の状況確認をしながらのパトロール
- ・地域課題を共に解決することで得られる連帯感
- ・近隣で声かけ合い、住民の変化を見逃さないで、助け合う事が大事
- ・支え合いのよさ、成果等の実例を知ってもらう活動を広げること
- ・色々な地域組織の担い手・リーダーの継承

狭山市の「地域福祉」に関するアンケート調査結果について

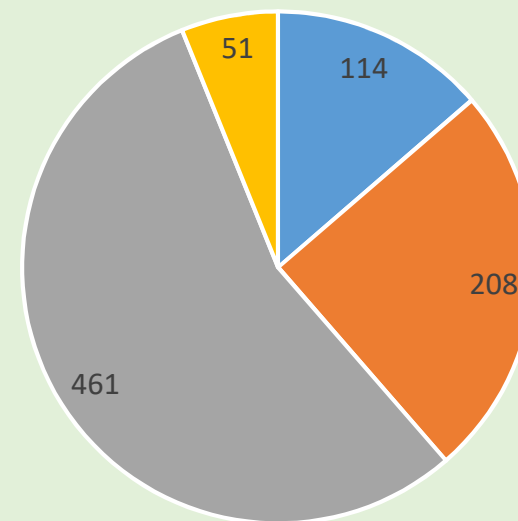
問8.住民が地域でつながる様々な活動や機会に参加している方は昨年と比べて増えていると思いますか。

- 1. 増えている
- 2. 減っている
- 3. 変わらない
- 4. 無回答



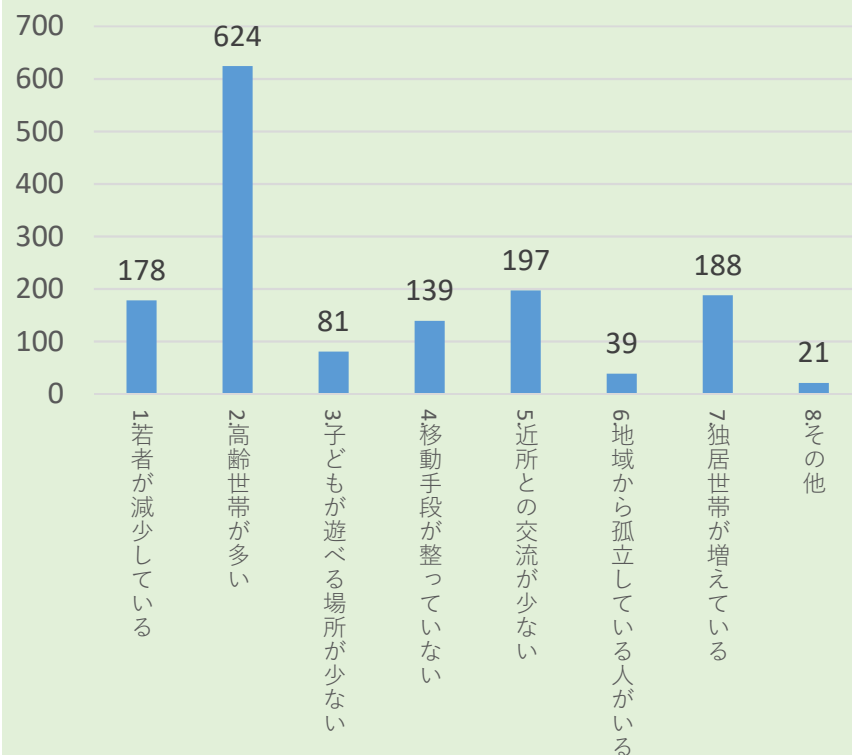
問9.住民が地域でつながる様々な活動について、これを「支援する人」は昨年と比べて増えていると思いますか。

- 1. 増えている
- 2. 減っている
- 3. 変わらない
- 4. 無回答



狭山市の「地域福祉」に関するアンケート調査結果について

問10.お住まいの地域で気になっていることや困っていることを選んでください。[回答は2つまで]



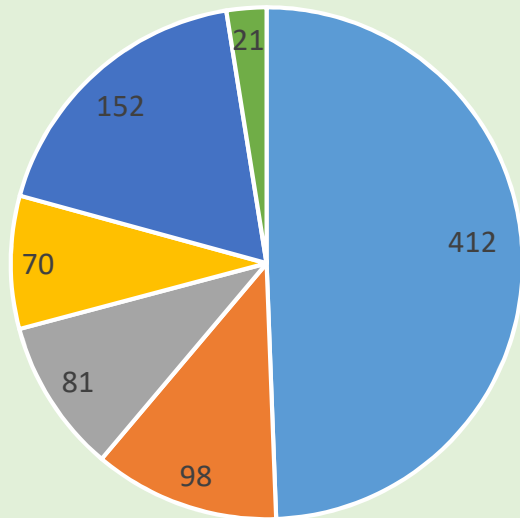
問10.お住まいの地域で気になっていることや困っていることを選んでください。(その他)

- ・外国人の増加による文化の違い
- ・他国の方との交流が難しい
- ・地域で出てくる課題はあるが、自分事としてではなく、他人任せになっている方が増えている
- ・若い世代の方々の地域参加が少ない
- ・自治会に入会しない人、辞める人が増えてきた。
- ・聴覚に障害があって手話を使う方は孤立している。高齢者サロンや百歳体操は地区ごとにあっても知らない、参加できていない。また、民生委員からの支援もコミュニケーションが壁となり、支援の手からこぼれ落ちている。
- ・買い物難民の増加
- ・住宅は増えているが、自治会未加入が多い
- ・交通の不便
- ・ウォーキング中で疲れていても休むベンチが無い

※一部抜粋

狭山市の「地域福祉」に関するアンケート調査結果について

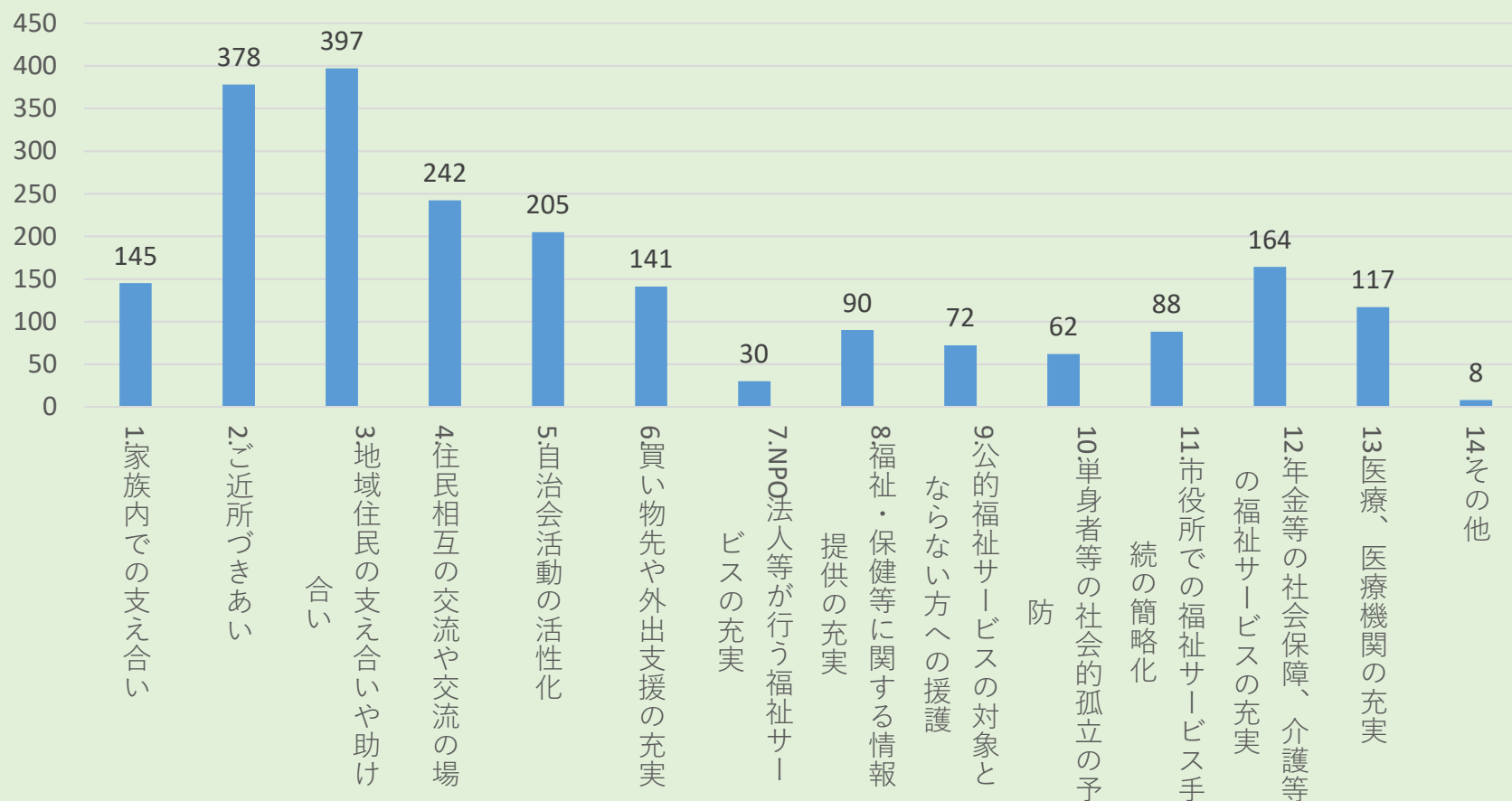
問11.あなたは、民生委員の役割や担当民生委員の名前を知っていますか。



- 1. 民生委員の役割と、担当民生委員の名前の両方を知っている
- 2. 民生委員の役割は知っているが、担当民生委員の名前は知らない
- 3. 民生委員の役割は知らないが、担当民生委員の名前は知っている
- 4. どちらも知らない
- 5. 現在民生委員・児童委員である、過去に民生委員・児童委員であった
- 無回答

狭山市の「地域福祉」に関するアンケート調査結果について

問12.暮らしやすい地域にするためには、何が必要だと思いますか。[回答は3つまで]



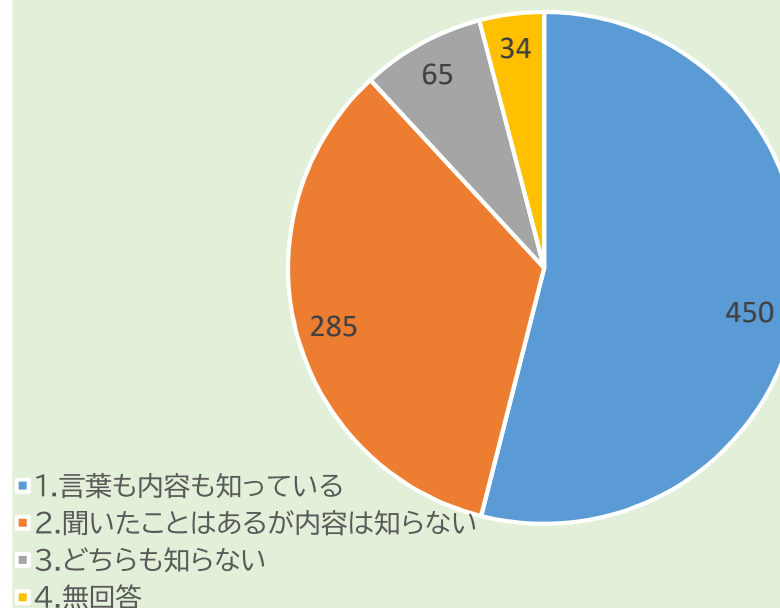
狭山市の「地域福祉」に関するアンケート調査結果について

問12.暮らしやすい地域にするためには、何が必要だと思いますか。(その他)

- ・共働き世代の地域交流活動などをもっと活性化すべき
- ・生活の安全安心が守られている状況
- ・負担にならない程度の関わり。高齢・障害などを分けしない繋がり
- ・個人の年齢や生活の節目や時代性により地域の手助けの必要な事柄が変わると思う
- ・情報をキャッチできる体制を本人も持つこと
- ・高齢者が気がるに頼めるタクシー
- ・移動の手段

※一部抜粋

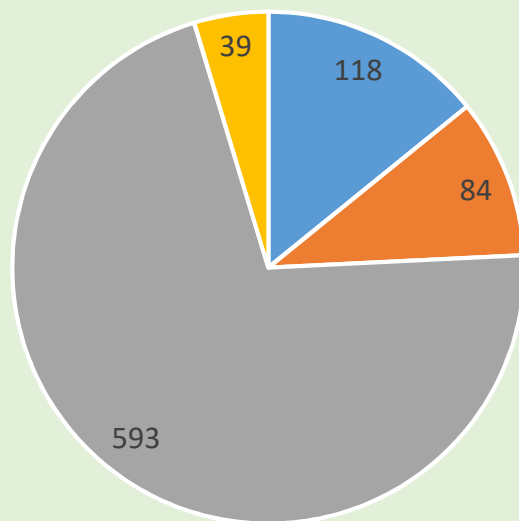
問13.あなたは、成年後見制度という言葉や内容について知っていますか。



狭山市の「地域福祉」に関するアンケート調査結果について

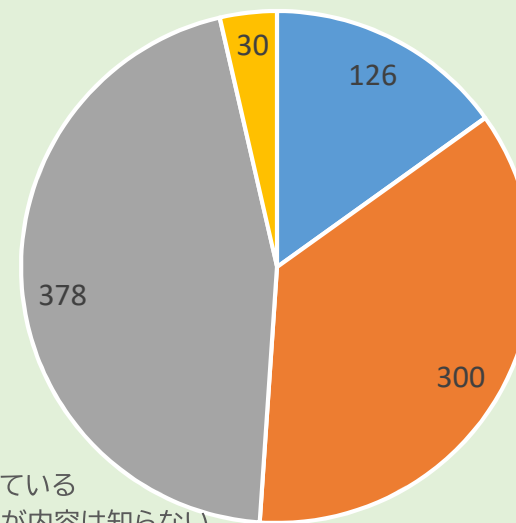
問14. 地域に成年後見制度を活用したほうがいいと思う方は増えていると思いますか。

- 1. 増えている
- 2. 変わらない
- 3. 分からない
- 4. 無回答



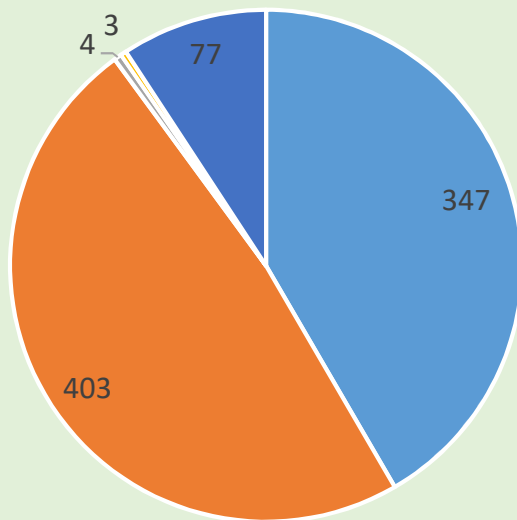
問15. 市民後見人という言葉や内容について知っていますか。

- 1. 言葉も内容も知っている
- 2. 聞いたことはあるが内容は知らない
- 3. どちらも知らない
- 4. 無回答



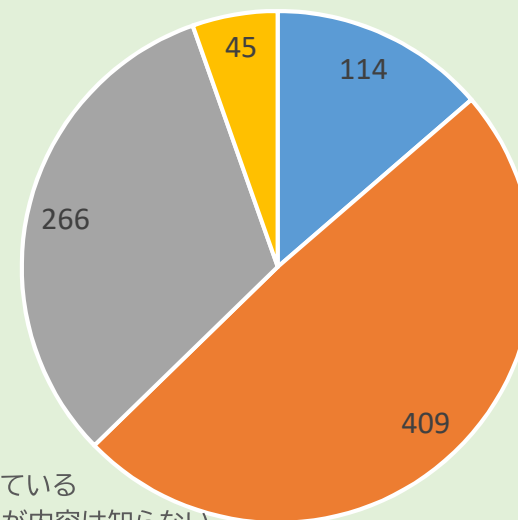
狭山市の「地域福祉」に関するアンケート調査結果について

問16. 市民後見人に興味がありますか。



- 1. 市民後見人に興味がある
- 2. 市民後見人に興味がない
- 3. 市民後見人になりたい
- 4. すでに市民後見人になっている
- 5. 無回答

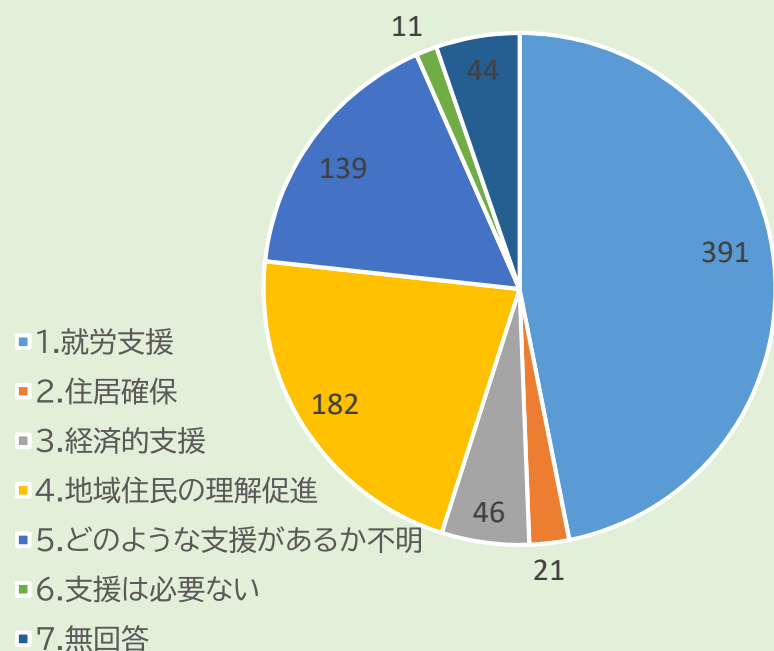
問17. 「再犯の防止等の推進に関する法律」(再犯防止推進法)という言葉や内容について知っていますか。



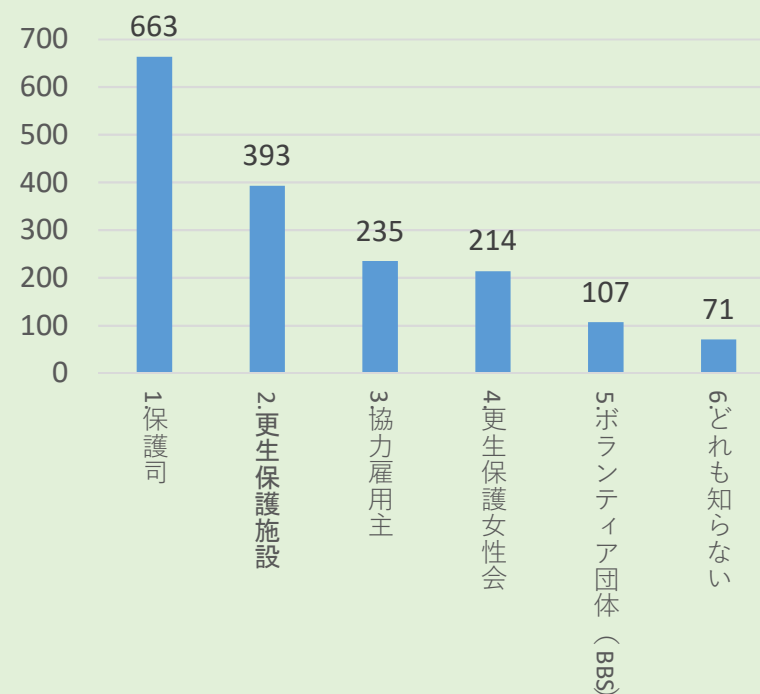
- 1. 言葉も内容も知っている
- 2. 聞いたことはあるが内容は知らない
- 3. どちらも知らない
- 4. 無回答

狭山市の「地域福祉」に関するアンケート調査結果について

問18.犯罪をした人が更生して地域で生活する場合に必要な支援はどのようなものが適切だと思いますか。

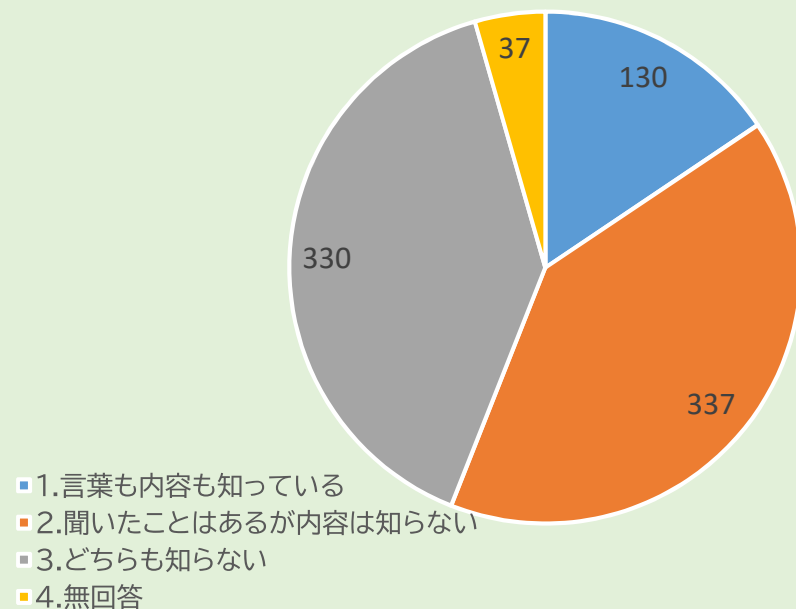


問19.犯罪をした人が立ち直り、再犯しないようにすることに協力する民間協力者として、知っているものを全て選んでください。
[回答は複数]

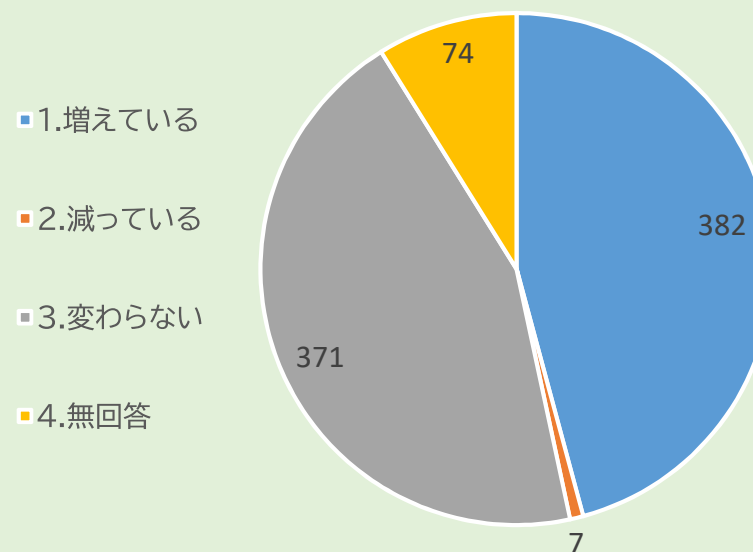


狭山市の「地域福祉」に関するアンケート調査結果について

問20. 社会を明るくする運動という言葉や内容について知っていますか。

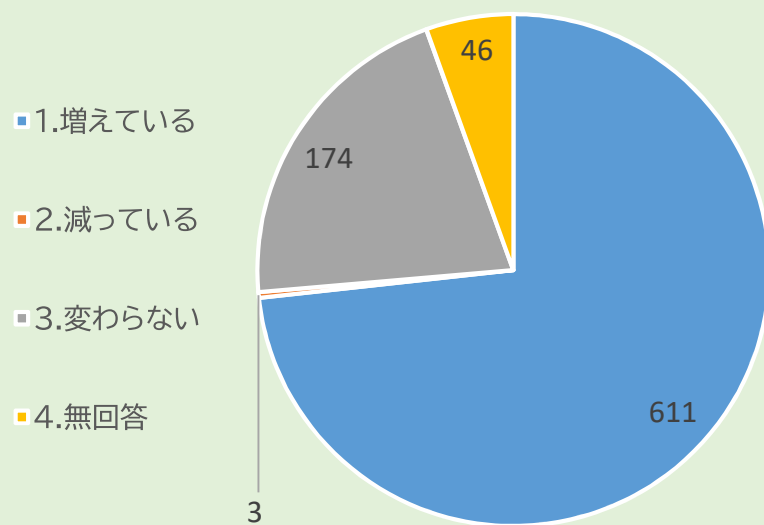


問21. 地域で身寄りがない人が増えていると思いますか。



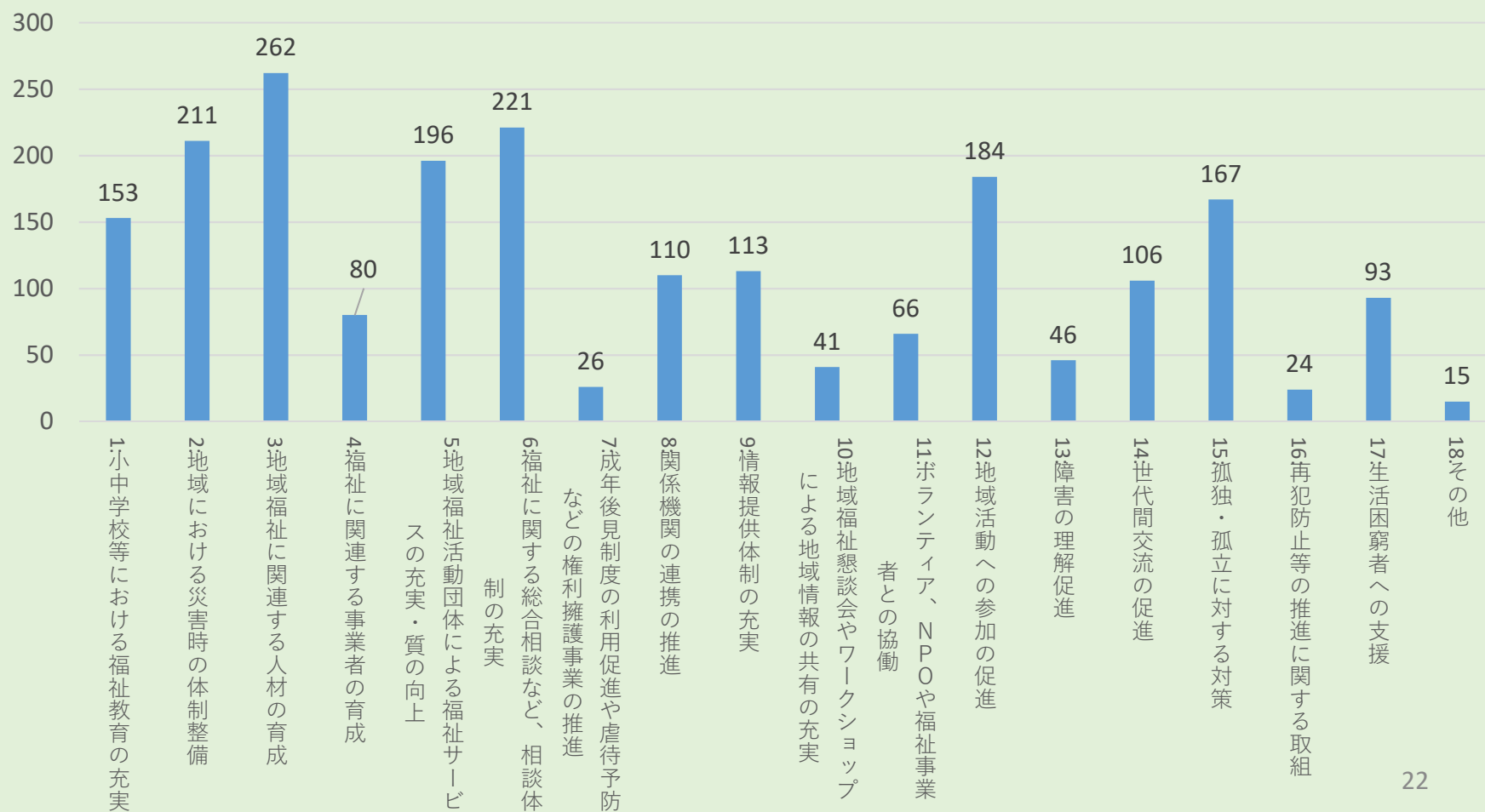
狭山市の「地域福祉」に関するアンケート調査結果について

問22.地域で単身世帯が増えていると思いますか。



狭山市の「地域福祉」に関するアンケート調査結果について

問23. 今後、地域福祉を充実させるために、市や社会福祉協議会が優先的に取り組むべきものは何だと思
いますか[回答は3つまで]



狭山市の「地域福祉」に関するアンケート調査結果について

問23. 今後、地域福祉を充実させるために、市や社会福祉協議会が優先的に取り組むべきものは何だと思いますか(その他)

- ・規制の緩和も必要(たとえば移動支援などは、民業圧迫とか旅客業法とか言っていないで地域住民が担えるよう制度を作るなど)
- ・市や社会福祉協議会のリーダーシップ
- ・老人会活動
- ・地域での課題を正しく把握すること。高齢者だけでなく、子どもや障害者への支援や課題を出し合って意見交換出来る場所をつくること。制度の狭間にある状況の人の支援を検討するために情報収集すること。
- ・課題の原点は少子高齢化です 中心になって動ける世代の方が役につかない状態。市や協議会の職員がそれぞれの、地域の現実を先ず認識することが優先です。なぜ自治会長がでないのか？なぜ組も解散するのか？なぜ民生委員のなり手がいないのか？を肌で感じ対策を講じるのがよろしいと考えます。特定の人に役割をお願いしては今後の展望は見えません。
- ・子ども支援や生活困窮者支援品の置き場に非常に困っている。市が管理する元気プラザは以前は置けたが管理者が変わったら置けなくなったため、早急にもっと開かれた場にして欲しい。ボランティアは支援品をあちこちに運び回しながら場所を確保している。もっとオープンに使えるようにしてください。
- ・ボランティアに頼る事は無理です。職員を育てていくべきです。社協も市も職員を増して真剣に取り組むべき
- ・役所は自治会に頼りすぎなのは。高齢者に出来る事は少ない
- ・外出しやすい環境作り(乗り物の利便性など)
- ・個人情報保護法のデメリットについて考える必要あり。
- ・年寄りはこちらを読むだけでも大変だと思います。本当に困った人の声はつたわらないのではと心配です。直接話を聞く場をもうけてはどうでしょうか。たとえば市内のスーパーのお茶のみスペースとか、サークル等イベントを調べてそこに顔を出してもらえると我々も気軽に声をあげられると思います。
- ・高齢者支援の拡充
- ・市が財政的に援助すべきである。生活保護の申請が大変と聞いている、支給しやすくすべきである。

※一部抜粋